

開催のお知らせ

令和5年度

水田農業振興フォーラム

1. 開催の趣旨

夏季の高温・少雨等による収量および品質が低下する等、近江米を取り巻く環境は、より一層厳しい状況にあります。こうした状況の中、土づくりをはじめとする施肥管理、水管理、適期作業等の基本技術を着実に実践することが重要となります。そこで、今後も予想される気候変動に対応した水稻栽培を行うとともに、令和5年産から一般栽培を開始した新品種「きらみずき」について、品種特性に応じた栽培管理を徹底し、生産拡大を図るため、フォーラムを開催します。

2. 内容

講演

1. 気候変動に対応した水稻栽培について
2. 新品種「きらみずき」の生産拡大に向けて

表彰式

令和5年度 近江米食味コンクール表彰

日時：**令和6年**
2月10日（土）
13:30～16:00

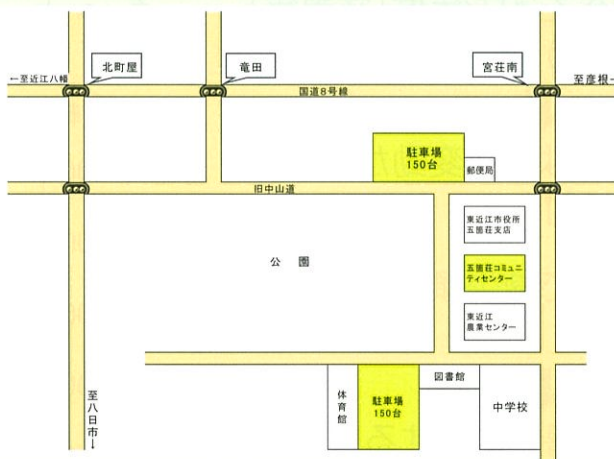
場所：五箇荘コミュニティセンター
（東近江市五箇荘小幡町 318）

対象：県内農業者および関係者等

定員：300名（先着順）

参加：無料

主催：近江米振興協会



感染症対策のお願い

発熱・咳等の症状があり、体調がすぐれない場合はご来場をお控えください。



3. 問い合わせ先

近江米振興協会事務局 TEL.077-523-3920

もしくは近江米振興協会の各支部（県農業農村振興事務所農産普及課）まで

4. 申込方法

下記の「参加申込書」により、各JAまたは滋賀県主食集荷商業協同組合会員の集荷業者へFAX等でお申し込みください。（令和6年1月末日締切です）

この用紙のままFAXしてください

申込書

住所	市・町	JA または 集荷業者名	
代表者の 緊急連絡先			
氏名		氏名	
氏名		氏名	

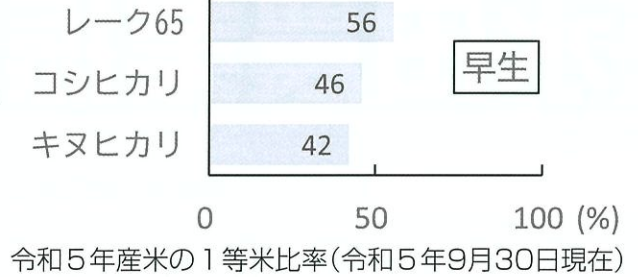
各JAまたは滋賀県主食集荷商業協同組合会員の集荷業者へ提出してください。なお、個人情報につきましては、フォーラムの利用目的以外では利用いたしません。

猛暑対策の心構え（抜粋版）

①品種によってリスク対策は異なる

出穂や成熟の時期、分けつのしやすさ、倒伏や暑さに対する強さなどの特徴が品種によって異なることから、**効果的な猛暑対策は品種によって異なります。**

みずかがみ



②猛暑に備えた土壌施肥管理を考えよう

田畑輪換の繰り返しや気温の上昇により有機物の分解が進み、**水田の地力は低下傾向**(図5)

全量基肥体系における水稻収量は、2022年度と比べて2023年度(猛暑年)で減少傾向(図6)

全量基肥体系では年次変動が大きくなる⇒追肥の検討

地力が低いほ場で減少傾向が高まる(図6)

地力の高低で猛暑年に対する影響が変化
⇒安定生産には地力向上が重要

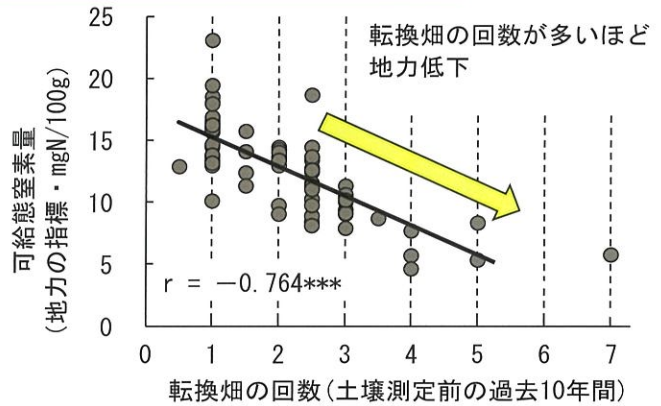


図5 転換畑の回数と地力の関係(滋賀農技セ 2021)

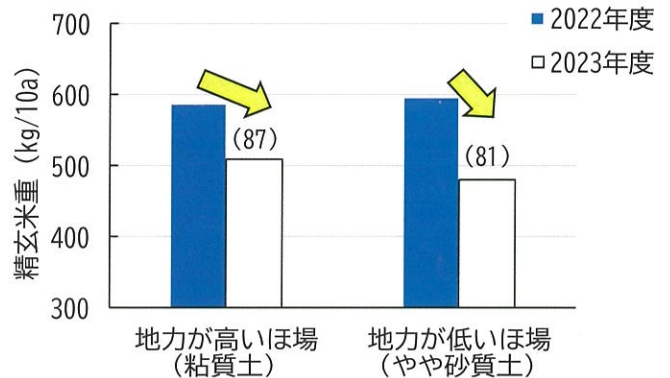


図6 ほ場の地力と収量(滋賀農技セ 2023)

注) 品種「みずかがみ」。5月上旬移植。全量基肥(7kgN/10a)。図中の()は2022年度収量に対する2023年度の収量比。

地力の向上による高位安定生産

牛ふん堆肥を2t/10a連用した地力が高いほ場では、猛暑年でも高い収量レベルを確保

猛暑年における安定多収を確保するには、**堆肥等の有機物**を用いた地力向上対策が重要

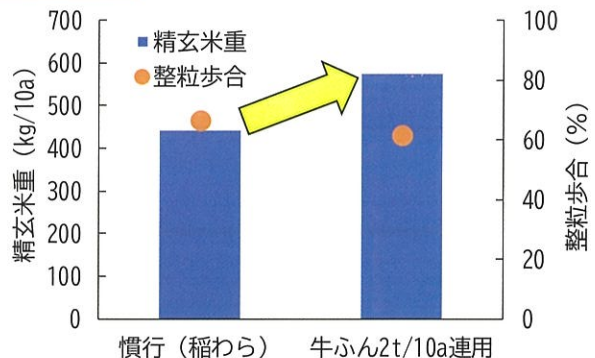


図12 牛ふん堆肥連用による増収効果(滋賀農技セ 2023)

注) 大豆跡「みずかがみ」。5月上旬移植。施肥1.5kgN/10a。田畑輪換ほ場(粘質田)。